

競 技 上 の 注 意

本大会は、平成 30 年 6 月 1 日一部改定の日本卓球ルールに準じて実施する。

※スポーツマンシップに則り、ルールを守り、中学生らしいマナーのもとで競技が行われるように努力すること。

1. ラケットおよびラバーについて

- (1)試合に使用するラケットで JTTA 公認マークのないものは、試合前に審判長の許可を受けること。
- (2)試合に使用するラケットのラバーはブレード面より大きすぎたり、小さすぎたりしないこと。

2. サービスについて

- (1)サーバーはフリーハンドの手のひらを平らに開き、その上につかむことなく自由に転がる状態でボールをのせて静止させる。
- (2)次にサーバーは、ボールに回転を与えることなく、16cm 以上ボールをほぼ垂直に投げ上げる。
- (3)サービスが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置でかつサーバー側のエンドラインの後方になければならない。またその間、ボールがレシーバーから常に見えていなければならない。

3. 競技用服装について

- (1)競技服装（シャツ、ショーツ、スカート）は、JTTA 公認ワッペンがついているものを着用すること。
- (2)団体戦で試合を行うチームの競技者は、靴および靴下を除いて、同じ服装で競技しなければならない。
- (3)ユニフォームの色は、襟・袖を除く主たる部分がボールの色と明らかに異なっていること。

4. 試合中のアドバイスについて

- (1)競技者はゲームとゲームの間の休憩時間（1分以内）、あるいは認められた競技の中断時間にのみ助言を受けることができる。また、コートを離れてのアドバイスを受けてはならない。
- (2)団体戦において、試合を行っている競技領域内（コート内）に試合を行っている選手以外は入ることができない。また、試合を行っている選手についても、ゲーム間のアドバイスを受ける場合は隣の競技領域に入ってはいけない。
- (3)競技中の認められた時間以外での監督やベンチからの声による助言や、身体の動作によるサイン等は禁止されている。（日本卓球ルール 2.5.1.3.1 → 高校生以下の大会を対象としたもの）
- (4)同時に複数のチーム、選手をアドバイスする監督またはアドバイザーは、試合前に審判に申し出た場合に限り試合中のベンチの移動を認める。

5. バッドマナーについて

- (1)ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢あるいはレシーブ体勢をとり、時間をかけすぎることなく、競技のスピードアップをはかること。サービスを出そうとしない、あるいはすぐにレシーブの構えに入らないときには「遅延行為」としてバッドマナーの対象となる。

6. 促進ルールについて

- (1)促進ルールは、ゲーム開始後 10 分を経過しても終了しない場合に適用される。ただし、両競技者(またはペア)のポイントの合計が 18 ポイント以上の場合には適用されない。
- (2)促進ルールが適用された場合、そのマッチの残りのゲームは促進ルールを適用して行なう。

7. その他の注意事項

- (1)タオルの使用は 6 本ごと、および最終ゲームのチェンジエンド時のみ認められる。
- (2)抗議権を持つのは、団体戦においては監督・アドバイザー、個人戦においては選手のみとする。
- (3)競技領域内での足拭き雑巾の使用を禁止する。
- (4)競技場フロア内のドリンク類の持ち込みはフタができるものにする。